



厦門市との交流のあゆみ



沖縄と中国との関係は一衣帯水の間にある隣国として、長い交流、交易の歴史があります。特に中国東部の福建省と沖縄県は歴史的なつながりと気候風土がよく似ている関係から福建省内の市と県内の市が相次いで友好都市の提携が進められました。宜野湾市においてもかねてより厦門を往来し関心のあった市民からの紹介を受けて、厦門市との交流がはじまりました。

1986 年 11 月 (昭和 61 年)	宜野湾市職員で構成する野球チーム（総勢 20 名）が私費で訪問し、厦門市チームと友好親善試合を行い交流を深める。	
1987 年 5 月 (昭和 62 年)	本市野球チームが友好親善試合のため訪厦したのを受けて、桃園正賢市長、石川仁一議長をはじめ 3 名が厦門市から招待を受けて公式訪問する。	
1987 年 11 月 (昭和 62 年)	市の代表が招待を受けたのに伴い、今後の両市の友好交流についての協議と厦門市関係者の招へい等のため担当者を派遣する。	
1988 年 3 月 (昭和 63 年)	厦門市政府農業委員会主任劉大斗他 4 名一行を市の実情視察と交流促進を図るため招へいする。市はじめ市内各種団体の代表者と意見交換を行い交流を深める。	
1990 年 8 月 (平成 2 年)	厦門市の市花であるブーゲンビリアを贈呈する。厦門市へ留学中の石川保也氏（真栄原出身）に持参させ、厦門市華僑亜熱帯植物引種園へ 8 本束、7 品種を贈呈する。	
1991 年 8 月 (平成 3 年)	本市市長並びに市議会議長が訪問した際のお礼とこれからの相互経済交流を含め、各種交流について協議のため張宗緒副市長を代表とする厦門市政府訪問団（5 名）一行を招へいし、市民あげて熱烈歓迎をする。	
1992 年 1 月 (平成 4 年)	厦門市張宗緒副市長一行 5 名が本市を訪問した時に、厦門市からの経済交流及び各種交流の可能性について条件提示があり、その確認のため市内経済界の代表者数名も同行し訪問する。	
1992 年 6 月 (平成 4 年)	本市市制施行 30 周年の節目の記念式典を盛大に開催されたのに伴い、同式典へ友好都市として位置づけ張宗緒副市長を代表とする厦門市関係者一行を招聘する。	

1993 年 9 月 (平成 5 年)	厦門市より招待を受け、同市で開催される 4 省 2 市合同の 1993 年福建省投資貿易商談会に桃原正賢市長をはじめ仲村春信議会議長ら市関係者 6 人が商工会創立 20 周年記念中国経済文化視察団一行 120 名余と共に団長として訪厦する。（投資貿易商談会へ以後 2003 年までに 6 回に渡り参加）	
1993 年 11 月 (平成 5 年)	懸案であったコンピューター研修生が諸条件をクリアーし、厦門市より 2 名の研修生が来市する。これより 6 ヶ月間、本市在のコンピューター専修学校パシフィックテクノカレッジ学院及び市において研修を開始する。	
1994 年 5 月 (平成 6 年)	6 ヶ月間にわたり、市内在のコンピューター専修学校をはじめ行政機関にて情報処理技術の向上と専門知識の習得をすると共に、本市厦門市との友好交流の懸け橋として活躍が期待される 2 名の研修生が研修の全日程を終了し、帰国する。研修終了に伴い、関係者多数を招待し研修修了式並びに送別会を開催した。	
1994 年 11 月 (平成 6 年)	文化交流の一環として、長崎県佐世保市、鹿児島県串木野市と一部共同により、厦門市青年宮舞踊団「小白鷺(ショウパイルー)」一行蔣韜厦門市対外友好協会会長を招へいし、宜野湾市民会館にて公演した。960 名余の入場者があり、盛況のうちに終了する。	
1995 年 11 月 (平成 7 年)	長年の懸案であった友好都市の提携調印が、交流 10 年目にして実現する運びとなり、桃原正賢市長を団長に伊佐雅仁市議会議長、津波保光商工会会長、玉那覇清仁宜野湾農協組合長ら一行 10 名、市代表団が厦門市を訪問して調印式を挙げる。両市市長が署名した議定書を交換すると共に、議定書に明記された具体的交流の実現を図ることを誓い合う。	
1996 年 9 月 (平成 8 年)	友好都市 1 周年を記念し、中国福建省厦門市友好訪問の旅を結成し、総勢 100 名余の団体が厦門市を訪問し、宜野湾市文化協会による琉球舞踊も披露される。	
1997 年 9 月 (平成 9 年)	桃原正賢前宜野湾市長が厦門市長から栄誉ある「市民栄誉賞」を授かる。	

1998 年 11 月 (平成 10 年)	平成 10 年 6 月に中国の揚子江流域で大洪水が発生、友好都市の廈門市がある福建省をはじめ中国国民に大きな被害を及ぼしており、一日も早い復興を支援するため支援募金活動を実施する。	
2001 年 8 月 (平成 13 年)	廈門市との経済貿易交流に向けた民間レベルでの交流機会の拡大を図り、本市の地域産業経済及び文化に触れることにより、尚一層の友好関係を深めるため、宜野湾市恒例のはごろも祭りに、廈門市親善交流団一行 13 名が参加して物産展示を行う。	
2002 年 7 月 (平成 14 年)	市制 40 周年を記念して廈門市より政府代表団 3 名、少年交流団 6 名が記念式典及び祝賀会に参加、陳昆源団長の祝辞や少年交流団の華麗な演舞が披露された。また、舞踏学校の生徒と宜野湾小学校 6 年生との青少年交流を実施した。	
2002 年 9 月 (平成 14 年)	市制 40 周年を記念して、廈門市の市立鷺江大学（現：廈門理工学院）へ最初の 1 年間研修留学生を派遣する。以降、中国に対する理解を深めるとともに、国際的視野をもった人材育成を目的に、毎年留学生を派遣している。	
2005 年 11 月 (平成 17 年)	宜野湾市と廈門市の友好合作提携 10 周年記念事業として、廈門市訪問の旅を実施し、両市の「友好と交流の絆」を深める。	
2007 年 5 月 (平成 19 年)	廈門市代表団が市長を表敬訪問し、宜野湾市より沖縄の三線一丁を寄贈。廈門市の観光名所である鼓浪嶼（コロンス）島に建設される楽器博物館に展示される予定。	

2010 年 2 月 (平成 22 年)	市長が廈門市を訪問し、詹副市長との会談や、毎年市民留学生を派遣している市立理工学院を視察。15 年間に育んだ友好合作事項を基礎として経済・学術・文化等、多方面に渡る分野において友好交流と信頼の絆を深めることを約束した。	
2011 年 11 月 (平成 23 年)	大学間の新たな友好関係を築くことを目的に、11 月 17 日～19 日の日程で、廈門理工学院の黄 紅武校長先生ら一行（6 名）が沖縄国際大学を来訪しました。	
2012 年 7 月 (平成 24 年)	市制 50 周年を記念して廈門市より政府代表団 3 名、芸能舞踊団 6 名が来訪。記念式典及び祝賀会に参加し、黄 峰（ふあん ほおん）外事弁公室副主任の祝辞や芸能舞踊団の華麗な演舞が披露された。	 
2015 年 11 月 (平成 27 年)	宜野湾市と廈門市の友好合作提携 20 周年記念事業として、市議会や商工会（3 名）とともに教育長を団長とした訪問団 8 名で廈門市訪問の旅を実施。 訪問では、廈門市人大常務委員会 副主任の杜明聡（とう みんつおん）との会談や毎年市民留学生を派遣している市立理工学院を視察し、両市の「友好と交流の絆」を深める。	 

2016 年 8 月 (平成 28 年)	廈門市と宜野湾市の友好関係を推し進め、経済貿易、観光、あるいは民間レベルなどの各分野で一層なる理解と交流を深めるため、廈門市政協商會議副主席・廈門市人民對外友好協會會長である詹滄洲様を団長とする 6 名の代表団が宜野湾市を表敬訪問。本市商工会、観光振興協會、國際交流協會、文化協會も交えた食交流会を行った。第 2 期廈門理工學院留學派遣事業で留學に行った比嘉勇貴さんが通訳ボランティアとして会に出席した。	 
2020 年 7 月 (令和 2 年)	本市における新型コロナウイルス感染症の影響を憂慮した廈門市から、マスク 1 万枚の寄贈があった。マスクの入った段ボール箱には、「千里比隣」(遠方も隣のように思われる)、「以心伝心」(声に出さなくても互いに理解し合える)といった心温まるメッセージが書かれており、両市の友好関係を再確認することとなった。	 
2021 年 ～ 2022 年 (令和 3 年 ～令和 4 年)	世界規模の新型コロナウイルス感染拡大の影響により、廈門留學生の派遣はやむを得ず中止。 令和 3 年には、松川市長より廈門市の新市長(黃文輝氏)に対する就任祝いメッセージを送り友好関係を深めている。	